

社会科（歴史的分野）学習指導案

指導者 佐々木 巳樹

- 1 日時 平成27年7月3日（金）1校時 南校舎4階2年1組教室
- 2 学級 盛岡市立上田中学校2年1組 男子19名 女子16名 計35名
- 3 主題 第5章 近代の幕開け 1 近代世界の確立とアジア（東京書籍）

4 主題について

本単元は、中学校学習指導要領、第2章歴史的分野の2、内容（5）のア「欧米諸国における市民革命や産業革命、アジア諸国の動きなどを通して、欧米諸国が近代社会を成立させてアジアへ進出したことを理解させる」ことをねらいとしている。内容（5）「近代の日本と世界」は、旧学習指導要領の（5）の中項目アからカを、近現代の学習を一層重視し我が国の近代の特色をとらえさせる観点から独立させたものであり、我が国の歴史の背景にある世界の歴史の内容を充実させることをねらいとしている。従って、本単元で欧米諸国における近代社会の成立、工業化による社会の変化、欧米諸国の進出によるアジア諸国の変容という観点から世界の歴史をおさえることで、次単元で扱う日本の開国やその影響について、欧米諸国のアジア進出と関連付けて理解させることができる。

生徒は小学校第6学年の学習において、ペリーが率いる米国艦隊の来航は江戸幕府に混乱が生じさせ、幕府のみならず当時の世の中を揺るがした歴史的事象であったことは理解している。また、日本が開国し、江戸幕府が倒れるきっかけになったことも理解している。しかし一方で、それらの背景として存在する、欧米諸国の近代化があったことや欧米諸国の接近の事情についての意識や理解は高くはない。そのため、日本が開国を迫られた時の国力の差を、欧米諸国は強くて日本は弱かった、といったように感覚的なとらえで理解している生徒も見受けられる。

そこで本単元では、日本の歴史に影響を及ぼす世界の動きを学ぶとともに、様々な資料から読み取れる事実を基に説明する作業を通して、市民革命によって近代民主政治への動きが生まれたこと、工業化による社会の変化から資本主義が成立したこと、産業革命の進展に伴って欧米諸国が新たな工業製品の市場や工業原料の供給地を求めてアジアへの進出を強めたことに気付かせることで、欧米諸国が近代社会を成立させてアジアへ進出したことを理解させたい。

5 指導と評価の計画（別紙）

6 本時の達成目標

社会的な事象への 関心・意欲・態度	
社会的な思考・判断・ 表現	革命による変化を、絶対王政と旧体制、人権尊重と国民主権の視点で資料を基に考察し説明している。 <生徒の記述例> ・フランスの民衆は国王による絶対王政や身分による不平等を改めるため、民衆の権利や主権を主張して、自由で平等な社会を求めたから。人権宣言にはロックやルソーの思想が影響している。
資料活用の技能	
社会的な事象についての 知識・理解	

7 本時の指導構想

(1) 本時のねらい

本時は評価規準の「社会的な思考・判断・表現」の「革命による変化を、絶対王政と旧体制、人権尊重と国民主権の視点で資料を基に考察し説明している。」を主にねらったものである。

(2) 「論理の意識化を図る学習活動」にかかわって

【考えがいのある課題の設定】

学習課題を「なぜ民衆は革命を起こしたのか。」と設定する。(3. 革命を起こすからには何か理由があったからではないかという推測から、本時の課題を立てる。)

課題解決の基となるのは、「絶対王政による専制君主制の社会に身分階級が存在していたこと」である。これについては、本時の導入の段階で確認する。(2. バスティーユ牢獄襲撃の様子からフランスで革命が発生した事実を知る。)

【論理の思考型を用いた言語活動】

1つ目は、類推思考「当時のフランス社会の社会は～なので、おそらく～」を用いて考えさせたい(4. 学習課題について予想を立てる。)

2つ目は、演繹的思考「民衆が革命を起こしたのは、～や～を求めたから。」を用いて考えさせたい(7. 学習課題をふり返り、本時のまとめを確認する。)

【かかわり合い】

本時は2度のかかわり合いを設定する。

1度目は、学習課題に対する各自の予想を発表させる場面である(4. 学習課題について予想を立てる。)。ここでは、自分の予想と比べたり、自分とは異なる視点で考えた意見にふれたりすることをねらう。

2度目は、ウェビングマップをもとにして、民衆が革命を起こした理由を発表する場面である(7. 関連付けて考えたことを、ウェビングマップを基に4人班で交流する。)。ここでは、4人班でのかかわり合いを設定し、個人で資料の読み取りを行い追究した内容の共有化を図るとともに、本時で学習している内容を既習事項と関連付けて考えることをねらう。1つの視点のみで社会的事象をとらえることがないよう、それぞれが読み取った内容の交流を図ることで、複数の視点から社会的事象を考察させたい。

【自己評価活動】

終末において自己評価活動を行う(9. 自己評価をする。)。学習を通して、市民革命によって近代民主政治への動きが生まれたことについて、感覚的にではなく資料をもとに論理的にとらえることができたことを記述した上で、単元を貫く学習課題「江戸幕府を滅亡させたものは何か」にふれて、日本の歴史に影響を及ぼす世界の動きを学ぶことで、日本の歴史に対する認識を深めることができたことなどを記述できるようになってほしい。

8 本時の展開

段階	学習活動	指導上の留意点	評価の観点・方法	教材・教具等
導入 15分	<ol style="list-style-type: none"> 前時までの既習事項を確認する。 バスティーユ牢獄襲撃の様子からフランスで革命が発生した事実を知る。 革命を起こすからには何か理由があったのではないかと推測から、本時の課題を立てる。 	<ul style="list-style-type: none"> イギリスでは市民革命が、アメリカでは独立革命が発生したことを確認する。 絶対王政が行われていたフランスで革命が発生し、人権宣言が発表された事実を紹介する。 イギリスやアメリカでの革命も背景があったことを想起させる。 		<ul style="list-style-type: none"> 紙板書 (イギリス議会) (独立宣言) スライド (革命前の風刺画) (バスティーユ牢獄)
なぜフランスの民衆は革命を起こしたのか。				
展開 27分	<ol style="list-style-type: none"> 学習課題について予想を立てる。 【自己決定①】 【かかわり合い①】 【類推思考】 ・身分の平等を求めた ・自由を求めた 課題解決のために根拠となる、「身分の平等」「自由」「人権の尊重」を資料1・2から読み取り、ウェビングマップにまとめる。 ウェビングマップを基に、本時で記入した内容と前時までの既習内容との関連性を考え、ウェビングマップに記入する。 関連付けて考えたことを、ウェビングマップを基に4人班で交流する。 【かかわり合い②】 学習課題をふり返り、本時のまとめを確認する。 【自己決定②】 【演繹的思考】 	<ul style="list-style-type: none"> 記述内容がフランス絶対王政時の身分階級が存在等、前時までの既習内容を基に思考しているか確認する。 国民中心の自由で平等な社会の実現を目指したことを資料から読み取ることが出来ているか確認する。 自由で平等な社会の要求はアメリカの独立戦争や啓蒙思想と関連性がある等、既習事項から関連付けて考えることができるか確認する。 発表を通して、自分が考えた根拠の確認や自分で感じることで出来なかった視点に気付くことが出来るよう交流の視点を助言する。 学習活動4～7の内容を整理し、まとめさせる。 	<p>8 【社会的な思考・判断・表現】</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>革命による変化を、絶対王政と旧体制、人権尊重と国民主権の視点で資料を基に考察し説明している。</p> </div> <p><学習シートの記述> A：アメリカの革命等、既習事項と関連付けながら考察し、説明している。複数の視点に着目し、より深まりのある説明となっている。 C：人権宣言の条文から大切だと思う言葉は何か確認させる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 学習シート 資料1・2 (風刺画) (人権宣言) ウェビングマップ
終末 8分	<ol style="list-style-type: none"> 自己評価をする。 			<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> 絶対王政では民衆が自由や平等を感じる事ができない世の中だったから、それらを手に入れるために革命を起こしたことがわかった。 鎖国をしている時代に、海外では市民革命によって人々の権利を認めるなど発展していたことがわかった。 人々の権利の他にも、世界の国が日本よりも発展していたことを知りたいと思った。 </div>

2 年 社 会		題材名 第5章 近代の幕開け 1 近代世界の確立とアジア		総時間 6時間扱い	
学習指導要領の指導事項			単元の目標		
(5) 日本の様々な地域 ア 欧米諸国における市民革命や産業革命, アジア諸国の動きなどを通して, 欧米諸国が近代社会を成立させてアジアへ進出したことを理解させる。			欧米諸国における市民革命や産業革命, アジア諸国の動きなどを通して, 欧米諸国が近代社会を成立させてアジアへ進出したことを理解することができる。		
社会的事象への関心・意欲・態度		社会的な思考・判断・表現		資料活用の技能	社会的事象についての知識・理解
欧米諸国における近代社会の成立とアジア進出などの歴史的な事象に対する関心を高め, 意欲的に追及して近代の特色をとらえようとし, 国際協調の大切さを考えようとする。		欧米諸国における市民革命や産業革命, アジア諸国の動きなどについて多面的・多角的に考察し, その過程や結果を適切に表現している。		欧米諸国における市民革命や産業革命, アジア諸国の動きなどに関する様々な資料を収集し, 有用な情報を適切に選択して, 読み取ったり図表などにまとめたりしている。	欧米社会が近代社会を成立させてアジアへ進出したことを理解し, その知識を身に付けている。
時	主な学習活動	おおむね満足 (B)	十分満足 (A)	評 価 事 例	
1	○絶対王政と議会政治 イギリスで専制君主制にかわり議会政治・立憲君主制が確立した革命の過程を説明する。	知 絶対王政からピューリタン革命と名誉革命を経て, 議会中心で政治を行うようになったことを述べている。	革命の前後で, 国王と議会の関係がどう変化したかにもふれている。	3 フランス革命の前後を比較し, 革命による変化を学習する場面 (思 学習シート) 革命による変化を, 絶対王政と旧体制, 人権尊重と国民主権の視点で資料を基に考察し説明しているかどうかを評価対象とする。 <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 45%;"> ■おおむね満足 (B) <ul style="list-style-type: none"> ・フランスの民衆は国王による絶対王政や身分による不平等を改めるため, 民衆の権利や主権を主張して, 自由で平等な社会を求めたから。人権宣言にはロックやルソーの思想が影響している。 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 45%;"> ■十分満足 (A) <ul style="list-style-type: none"> ・フランスの民衆は国王による絶対王政や身分による不平等を改めるため, 民衆の自由や平等の権利, 国民主権を主張して, 自由で平等な社会を求めたから。人権宣言にはロックやルソーの思想が影響しており, 人間の平等や自由の追究などアメリカ独立宣言と似ている表現もある。 </div> </div> 革命による変化を, 絶対王政と旧体制, 人権尊重と国民主権の視点で資料を基に考察し説明している。 【C: 指導の手立て】 資料から考察し, 説明することが難しい生徒に対しては, 人権宣言の条文から大切だと思う言葉は何かを確認し, 人権の尊重と国民主権を想起することができるように支援をする。	
2	○アメリカの独立革命 アメリカの独立について, 独立宣言や合衆国憲法の特徴を説明する。	知 独立宣言から自由, 平等, 幸福の追求などのキーワードを用いて述べている。	独立宣言や合衆国憲法の内容を啓蒙思想と結びつけて説明している。		
3 (本時)	○フランス革命 フランス革命の前後を比較しながら革命による変化をまとめる。	思 革命による変化を, 絶対王政と旧体制, 人権尊重と国民主権の視点で資料を基に考察し説明している。	人権宣言の内容をアメリカ独立宣言と結び付けるなど, イギリスやアメリカの革命での学習も踏まえて説明している。		
4	○産業革命と資本主義社会 産業革命がイギリスにおいてどのようにして始まったかを調べ, その過程をまとめる。	技 産業革命について, 大量生産の背景や大量輸送を可能にした機械の発明について, 図にまとめている。	市民革命や最初に起こっていた点や蒸気機関の有用性などにもふれてまとめている。		
5	○欧米列強の成立 欧米諸国が国家の勢力をのばしていった過程を説明する。	知 近代化への動きを, 各国の改革の内容や国家の統一に着目して説明している。	領土の拡大や植民地支配にもふれている。		
6	○アジアの植民地化 イギリスが清をどのように侵略していったのか, 清はどのように対応したのかをまとめる。	思 三角貿易の内容や清が結んだ条約の不平等性についてふれてまとめている。	清が不平等条約を結ばされたことが日本にも影響を与えていることに気付いている。		